

# 日本初の旅客索道

## 矢ノ川（やのこ）峠旅客索道

（紀州自動車索道線）

尾鷲の二つ木屋地区の大橋のたもとから頂上小坪駅まで

紀伊半島一の難所で、名古屋からは尾鷲、大阪から熊野まで鉄道はつながったが、尾鷲～熊野間は鉄道がなく紀伊半島一周できなかつた。

尾鷲～熊野間の難所に、昭和2年尾鷲の大橋から矢ノ川峠の小坪までを結ぶ矢ノ川峠旅客索道が開通した。尾鷲市内から大橋、小坪から熊野はバス連絡。これが日本初の人を運ぶ旅客索道です。

昭和11年に道路改修し未舗装の峠道を国鉄バスが（約3時間）走り、昭和11年1月索道は廃止された。

昭和34年の紀勢本線全通まで続いた。

安全索道商会は少ない投資で足りる単線自動循環式旅客索道を開発し開通。

尾鷲の二つ木屋地区の大橋のたもとから頂上小坪駅まで全長.1185m。標高差479m、支柱9基。

電動機は東京芝浦製作所製の200V電気モーター.20馬力。運行速度4.5km/h

ゴンドラは旅客用二人乗り当初8台、貨物用2台。後25台まで増強。



写真提供：三重県総合博物館

